

小特集「パターン認識技術の応用」の編集にあたって

松本 吉弘†

本小特集は編集委員の一人である鳥脇純一郎氏の提案にしたがって検討を始めたものであるが、いざ企画を開始してみると、つぎのような点で難問続出し、苦しむことになった。

1. 理論の発展や、それに基づいた実験はきわめて豊富に、かつ多岐にわたって行われているが、本当の意味での商用化という観点からは小特集に採用できるレベルに到達していないものが多い。
2. 理論や実験中心の特集は、他の学会でも過去にいくつか発刊されている。
3. 現時点で、会員に対してもっとも貢献できる小特集にするとすると、真の意味での実用技術を対象としたものでなくてはならない。
4. そうかといって、商用技術専門誌のようなジャーナリスティックなものであっても困る。
5. 実用化されているものであっても、企業上の都合でまだ、解説記事にはできないというような例もある。

いずれにせよ、これらの要望や制約を慎重に配慮しながらまとめたのが、この小特集である。読者の一部の方々にとってはご不満の向きもあるかと想像されるが、ご諒承願いたい。

総説に続く各解説は文字認識、形状認識、音声認識の3つのカテゴリに分割し、各カテゴリに3件ずつの代表例に関する解説を収めた。画像処理に関しては、「情報処理」Vol. 21, No. 6 (昭55, 6月)、およびVol. 20, No. 12 (昭54, 12月)に小特集が組まれて

いるので、含めない方針とした。

郵便物自動処理は始まってから久しくなるが、その後、日欧米で実用化の範囲が拡大し、技術動向の変遷が見られるので、テーマとして採用した。印刷漢字認識については、PIPS プロジェクト(工技院パターン情報処理システム)の成果の応用を中心に展開していただいた。ファクシミリ入力文字、自動組立におけるパターン認識は、本文に続く森俊二氏の総説で触れられているとおりで、実用化を前提とした大きな継続的努力が払われているテーマである。農作物などの選別へのパターン認識の応用は、実用面でのユニーク性がある。手書き図面の自動読取は設計作業の効率化が叫ばれている昨今、製造業ではきわめて重要な課題となっているので、解説をお願いした。

バンキング業務と自動仕分け装置への音声認識の応用については、森氏の総説に触れられているとおりで、鉄道車両の入換え業務に対する音声の利用の紹介には無線通信を介した音声の認識に関する貴重な現場実験データが含まれているので、読者に貢献すると思われる。

パターン認識技術の動向全体の中で、各解説で述べられた技術的成果がどのような位置を占めるかに関して、森氏が総説の中で独自の見解を示しておられ、読者にとって参考になるものと思われる。

末筆ながら、本小特集の提案者である鳥脇純一郎氏、各解説をお引受け下さった著者の方々、ご協力下さった編集委員の方々に御礼を申上げる。

(昭和56年2月9日受付)

† 東芝(株)重電技術研究所